

機 械

1. 評価対象企業（19 社）

アマダ、ナブテスコ、SMC、小松製作所、住友重機械工業、日立建機、クボタ、荏原製作所、ダイキン工業、栗田工業、ダイフク、日本精工、THK、安川電機、マキタ、ファナック、三菱重工業、川崎重工業、IHI

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目（注）数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	2	26
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	3	21
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	3	11
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	6	36
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	6
計		15	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は 58 頁参照。なお、評価分野④は「コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示」から名称を変更した。

(2) 評価実施アナリストは 27 名（所属先 22 社）である。（氏名等は 59 頁参照）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は 57 頁参照）

① 当業種は、2021 年度の優良企業選定を休止し、本年度再開した。従って、本年度において比較参照する過去の数値は 2020 年度（以下「前回」という。）のものである。

本年度は、評価項目分野のうちコーポレート・ガバナンス関連を ESG 関連に名称変更し、同分野を中心に項目数、内容および配点を見直した。このため、前回と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 72.8 点（前回 73.6 点）、総合評価点の標準偏差は 12.8 点（前回 10.6 点）であった。

② 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 70%（前回 73%）、説明会等が 79%（前回 77%）、フェア・ディスクロージャーが 80%（前回 74%）、ESG 関連が 71%（前回 74%）、自主的情報開示が 59%（前回 69%）となった。

③ 評価項目について見ると、全 15 項目中、次の 2 項目（説明会等の中の 1 項目 (a) およびフェア・ディスクロージャーの中の 1 項目 (b)）の平均得点率が 80% 以上となった。

(a) 「四半期ごとに業績動向に関する説明会（電話会議を含む）を開催していますか（開催あり：満点）」（平均得点率 89%〔前回同率〕）（得点率（評価点／配点（以下省略））： 0%2 社・100%17 社）

(b) 「経営陣および IR 部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないように十分な注意を払っていますか（会社にとって都合が悪い情報、メディアへの対応を含む）」（平均得点率 84%〔前回 87%〕）（得点率：70%台 2

社・80%台 13 社・90%台 4 社)

- ④ 一方、次の 2 項目 (ESG 関連の中の 1 項目 (a) および自主的情報開示の 1 項目 (b)) は 50%台以下となり、低水準であった。

- (a) 「ESG 関連の説明会を開催していますか」(平均得点率 42%) (得点率: 0%11 社・100%8 社)
(b) 「会社主催の事業部説明会、技術説明会、中期戦略説明会、M&A 説明会、工場見学等を実施し、かつその内容が充実していますか」(平均得点率 59% [前回 65%]) (得点率: 20%台 3 社・30%台 4 社・60%台 2 社・70%台 6 社・80%台 3 社・90%台 1 社)

- ⑤ なお、前回の報告書において改善を求めた、フェア・ディスクロージャーの中の「ウェブサイトにおける情報提供」(2 項目)については、平均得点率が共に 70%台 (前回は共に 63%) となった。ただし、一部の企業においては、依然として 0%の評価となっており、当該企業については改善努力を強く求めたい。

- ⑥ ESG 関連の 6 項目は、次のとおりとなった ((a) ~ (d) は本年度の新設項目)。なお、(a)および(b)を見ると、評価対象企業の多くが統合報告書を発行しているものの、ESG 関連の説明会を開催しているものは半数未満となっている。

- (a) 「統合報告書を発行していますか」(平均得点率 79%) (得点率: 0%4 社・100%15 社)
(b) 「ESG 関連の説明会を開催していますか」(平均得点率 42%) (得点率: 0%11 社・100%8 社)
(c) 「環境に関する情報・定量目標 (KPI) を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか」(平均得点率 78%) (得点率: 50%台 1 社・60%台 4 社・70%台 2 社・80%台 9 社・90%台 3 社)
(d) 「社会に関する情報・定量目標 (KPI) を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか」(平均得点率 73%) (得点率: 50%台 1 社・60%台 6 社・70%台 8 社・80%台 4 社)
(e) 「コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。例えば、社外取締役、政策保有株式、役員報酬の算定方式等」(平均得点率 76% [前回同率]) (得点率: 60%台 4 社・70%台 8 社・80%台 6 社・90%台 1 社)
(f) 「中期経営計画や長期ビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていますか。また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていますか」(平均得点率 73% [前回 72%]) (得点率: 50%台 2 社・60%台 4 社・70%台 8 社・80%台 5 社)

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 小松製作所 (ディスクロージャー優良企業 [13 回目]、総合評価点 88.9 点 [前回比+4.4 点]、 前回第 2 位)

- ① 同社は、説明会等(得点率〈以下省略〉91%)、ESG 関連 (91%) が第 1 位、経営陣の IR 姿勢等 (82%)、自主的情報開示 (85%) が第 2 位、フェア・ディスクロージャーが同得点第 2 位 (95%) となった。前回に比べ、自主的情報開示を除く 4 分野において、順位が上昇した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能」(第 2 位) および「経営陣の IR 姿勢」(同得点第 2 位) が共に評価され、この分野において第 2 位 (前回第 6 位) となった。これらに関連して、経営陣が投資家とのコミュニケーションに積極的であり、質疑においても十分な回答が得られるとの声や、社長スモールミーティングの定期的な開催を評価する声が寄せられた。また、ESG の取組みを事業活動に結び付けた説明を評価する声もあった。
- ③ 説明会等においては、「説明資料等 (短信及びその付属資料・説明会資料) における開示」が、最も高い評価となった。また、「説明会、インタビューにおける開示」(第 2 位) についても高い評価となったことから、この分野において第 1 位 (前回同得点第 3 位) となった。これらに関連して、説明資料は詳細であり質も高いとの声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「ウェブサイトにおける情報提供」の 2 項目が共に、満点の評価となった。また、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」(同得点第 2 位) についても、極めて高い評価と

なった。これらの結果、この分野において、第1位と僅差の同得点第2位となった。これらに関連して、需要や稼働のデータを月次でウェブサイトに掲載するなど、フェア・ディスクロージャーへの配慮が見られるとの声があった。

- ⑤ **ESG 関連**においては、「統合報告書、ESG 関連の説明会」の2項目が、共に満点の評価となった。「環境に関する開示」（同得点第2位）および「社会に関する開示」（同得点第1位）も高い評価となった。また、「ガバナンスに関する開示」の2項目についても高く評価され、85%以上の得点率となった。これらの結果、この分野において第1位となった。これらに関連して、資源、環境関連リスクが高い中でのリスク低減の取組みを開示していることや、自社の強みを認識した上で、電動化やデジタル化を機会として捉える戦略を開示していることを評価する声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「会社主催の事業部説明会、技術説明会、中期戦略説明会、M&A 説明会、工場見学等を実施し、かつその内容が充実していること」（第2位）が高い評価となった。これに関連し、会社主催のイベントが豊富であるとの声のほか、事業説明会の開催を評価する声があった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 荏原製作所（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点 87.2 点〔前回比+10.0 点、前々回比+16.0 点〕、前回第10位〔前々回第13位〕）

- ① 同社は、**自主的情報開示**が第1位（90%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第2位（95%）、**経営陣のIR 姿勢等**が第3位（82%）、**ESG 関連**が同得点第3位（88%）、**説明会等**が第4位（87%）となった。前回に比べ、5分野全てにおいて得点率が大きく改善し、総合評価点の大幅な上昇（+10.0 点）につながった。
- ② **経営陣のIR 姿勢等**においては、「経営陣のIR 姿勢」（同得点第2位）および「IR 部門の機能」（第3位）は、前回に比べ、いずれも得点率が改善した。これらの結果、この分野において第3位（前回第12位）となった。これらに関連して、経営陣がIR に積極的に関与し投資家との対話を重視しているとの声や、経営陣の企業価値向上への意識が従来よりも高まったとの声が寄せられた。また、IR 対応が充実しており、ESG の議論もできるとの声もあった。
- ③ **説明会等**においては、「説明資料等（短信及びその付属資料・説明会資料）における開示」（同得点第2位）が、高い評価となった。また、「説明会、インタビューにおける開示」（同得点第4位）についても、80%以上の得点率となった。これらに関連して、セグメント別の増減益分析は理解しやすいとの声があった。なお、各事業の定性的な情報の充実を望む声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「ウェブサイトにおける情報提供」の2項目が共に、満点の評価となった。また、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第2位）についても、極めて高い評価となり、この分野において、第1位と僅差の同得点第2位（前回第12位）となった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「統合報告書、ESG 関連の説明会」（2項目共に満点）および「コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していること、例えば、社外取締役、政策保有株式、役員報酬の算定方式等」が、最も高い評価となった。社外取締役による説明会を開催したことが高い評価につながった。また、「中期経営計画や長期ビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていること。また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること」（第3位）も評価された。なお、「環境に関する開示」は第5位、「社会に関する開示」は同得点第5位となった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「会社主催の事業部説明会、技術説明会、中期戦略説明会、M&A 説明会、工場見学等を実施し、かつその内容が充実していること」は、最も高い評価となった。これに関連し、事業説明会の開催を評価する声があった。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「ディスクロージャーの改善が著しい企業」に選定した。

第3位 ダイキン工業（総合評価点 87.1 点〔前回比－2.4 点〕、前回第1位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等が第1位（83%）、説明会等が第2位（90%）、ESG 関連が同得点第3位（88%）、自主的情報開示が第5位（78%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第12位（91%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」および「IR 部門の機能」が共に、最も高い評価となった。これらに関連して、経営トップが積極的に説明会に関与しており IR への姿勢は高く評価できるとの声や、高い経営執行力を投資家に的確に伝えているとの声が寄せられた。また、IR 担当者の情報集積が高く、アクセスも容易であるとの声もあった。これらの結果、この分野において第1位となった。
- ③ 説明会等においては、「説明会、インタビューにおける開示」が、最も高い評価となった。また、「説明資料等（短信及びその付属資料・説明会資料）における開示」（第4位）についても、80%以上の得点率となった。これらの結果、この分野において第2位となった。なお、開示内容を評価する声とともに、ソリューション事業などの中期経営計画における注力分野について、定量的な振り返りを望む声もあった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「ウェブサイトにおける情報提供」の2項目が共に、満点の評価となった。なお、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」は、同得点第14位となった。これに関連して、メディア報道が開示に先行している状況が見られるとの声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、「統合報告書、ESG 関連の説明会」（2項目共に満点）および「環境に関する開示」が、最も高い評価となった。また、「社会に関する開示」（第3位）も評価された。なお、「ガバナンスに関する開示」の2項目については、「中期経営計画や長期ビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていること。また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること」（同得点第1位）は、高く評価されたものの、「コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していること。例えば、社外取締役、政策保有株式、役員報酬の算定方式等」は、同得点第12位となった。これらに関連して、企業価値向上につながるマテリアリティを設定し、中期経営目標とも関連付けていることを評価する声があった。なお、ESG 関連の開示内容を評価しつつ、ガバナンスに関して、より丁寧な説明を求める声もあった。
- ⑥ 自主的情報開示の「会社主催の事業部説明会、技術説明会、中期戦略説明会、M&A 説明会、工場見学等を実施し、かつその内容が充実していること」（第5位）は、前回に比べ得点率が下がった。なお、会社主催のイベントが豊富であるとの声があった。

以 上

2022年度 ディスクロージャー評価比較総括表（機械）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	6301 小松製作所	88.9	21.4	2	19.2	1	10.5	2	32.7	1	5.1	2	2
2	6361 荏原製作所	87.2	21.2	3	18.3	4	10.5	2	31.8	3	5.4	1	10
3	6367 ダイキン工業	87.1	21.6	1	19.0	2	10.0	12	31.8	3	4.7	5	1
4	6370 栗田工業	85.7	20.7	4	18.5	3	10.4	5	32.5	2	3.6	11	4
5	6506 安川電機	83.3	19.9	5	17.9	6	10.1	9	30.8	6	4.6	6	3
6	6305 日立建機	82.4	19.4	6	17.4	9	10.6	1	30.5	7	4.5	7	5
7	6268 ナブテスコ	81.6	18.7	8	17.2	10	10.3	7	31.1	5	4.3	9	7
8	7011 三菱重工	78.8	17.6	14	16.1	15	10.1	9	30.0	8	5.0	3	8
9	6326 クボタ	74.8	19.4	6	18.0	5	7.4	14	25.8	10	4.2	10	6
10	7012 川崎重工	74.2	17.8	13	17.1	11	10.0	12	24.3	12	5.0	3	12
11	7013 IHI	73.1	18.3	11	17.0	12	10.3	7	23.9	13	3.6	11	11
12	6471 日本精工	72.7	17.9	12	16.5	14	10.5	2	25.5	11	2.3	13	9
13	6302 住友重機械工業	68.8	16.0	17	15.5	16	10.1	9	22.7	14	4.5	7	13
14	6383 ダイフク	68.3	18.7	8	17.5	7	4.0	17	25.9	9	2.2	14	15
15	6113 アマダ	64.3	18.4	10	17.5	7	10.4	5	16.7	16	1.3	19	14
16	6586 マキタ	61.8	17.2	15	16.6	13	3.9	18	22.3	15	1.8	16	17
17	6481 THK	52.6	15.7	18	11.1	19	7.3	15	16.4	17	2.1	15	16
18	6954 ファナック	49.6	10.4	19	14.4	17	7.0	16	16.3	18	1.5	17	18
19	6273 SMC	48.3	17.2	15	12.0	18	3.8	19	13.9	19	1.4	18	19
	評価対象企業評価平均点	72.82	18.29		16.67		8.80		25.53		3.53		

2022年度評価項目および配点（機械）

【評価期間：2021年7月～2022年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（26点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IRに積極的に関与していますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	13
(2)IR部門の機能	
・IR部門に十分かつ正確な情報が集積され、アクセスも容易で、担当者と有益なディスカッションができますか。また、投資家のニーズに合わせ、他部門（ESG関連部門など）と連携をとっていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	13
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（21点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
・決算説明会およびインタビューにおける会社側の説明（質疑応答を含む）は十分ですか。	8
(2)説明資料等（短信およびその付属資料・説明会資料）における開示	
・投資家が求める情報（業界動向、事業別損益、中期の経営戦略、為替等の会社計画の前提、会計変更の影響）が十分に開示されていますか。	8
(3)四半期情報開示	
・四半期ごとに業績動向に関する説明会（電話会議を含む）を開催していますか。【開催あり：5点 開催なし：0点】	5
3. フェア・ディスクロージャー（11点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。（会社にとって都合が悪い情報、メディアへの対応を含む）	5
(2)ウェブサイトにおける情報提供	
①決算説明会等の内容はウェブサイト動画または音声で視聴できますか。	3
②決算説明会等での質疑応答の内容がウェブサイトでも分かるようになっていますか。	3
4. ESGに関連する情報の開示（36点）	配点
(1)統合報告書、ESG関連の説明会	
①統合報告書を発行していますか。	5
②ESG関連の説明会を開催していますか。	5
(2)環境に関する開示	
・環境に関する情報・定量目標（KPI）を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか。	8
(3)社会に関する開示	
・社会に関する情報・定量目標（KPI）を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか。	8
(4)ガバナンスに関する開示	
①コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。例えば、社外取締役、政策保有株式、役員報酬の算定方式等。	5
②中期経営計画や長期ビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていますか。また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていますか。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（6点）	配点
・会社主催の事業部説明会、技術説明会、中期戦略説明会、M&A説明会、工場見学等を実施し、かつその内容が充実していますか。[過去1年間を目安に評価]	6

機械専門部会委員

部 会 長	齋藤 克史	野村證券
部会長代理	田井 宏介	大和証券
	井原 芳直	モルガン・スタンレー MUFG 証券
	大内 卓	SMBC 日興証券
	佐野 友彦	JP モルガン証券
	下森 浩	三菱 UFJ 信託銀行
	宮城 大和	みずほ証券

評価実施アナリスト（27名）

石井 宏	朝日ライフ アセットマネジメント	清水 俊宏	アセットマネジメント One
石田 重和	丸三証券	下森 浩	三菱 UFJ 信託銀行
石塚 大	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	田井 宏介	大和証券
猪股 彩香	大和証券	田中 英太郎	SOMPO アセットマネジメント
井原 芳直	モルガン・スタンレー MUFG 証券	谷林 正行	QUICK
大内 卓	SMBC 日興証券	田村 真一	極東証券経済研究所
大平 光行	東海東京調査センター	柊 宏二	QUICK
岡田 真一	三菱 UFJ 信託銀行	堀井 章	ニッセイ アセット マネジメント
蒲生 宗央	野村アセットマネジメント	グレアム マクドナルド	シティグループ証券
児玉 芳明	明治安田アセットマネジメント	道脇 祐介	三菱 UFJ 信託銀行
齋藤 克史	野村証券	南 純一	りそなアセットマネジメント
佐々木 翼	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	宮城 大和	みずほ証券
佐野 友彦	JP モルガン証券	渡辺 洋一郎	水戸証券
澤田 智博	三井住友 DS アセットマネジメント		

（注）上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。